

ボローニャフィルハーモニー管弦楽団および演奏者に関するプロフィール

ボローニャフィルハーモニー管弦楽団 Filarmonica di Bologna

およそ 250 年の歴史を誇るイタリア屈指の名門オペラハウス、ボローニャ歌劇場の常設オーケストラとして 1956 年に結成されたボローニャ歌劇場管弦楽団。その主要メンバーで 2008 年に結成されたのが、ボローニャフィルハーモニー管弦楽団である。

これまでにピアニストで指揮者のミハイル・プレトニョフや、チェリストの巨匠ミッシェル・マイスキーら国際的に活躍するアーティストと共演するなど、国内外にて精力的に活動してきた。そのパフォーマンスは極めて高い演奏水準を誇るとヨーロッパ全土で評価を得ている。

2014 年にはイタリアを中心に活躍している日本人指揮者吉田裕史を芸術監督に迎えた。

2015 年から始まったジャパン・オペラ・フェスティバルでは毎年演奏を担っており、日本の歴史的文化遺産を借景にした野外オペラ公演で、日本文化とイタリア文化の融合というオペラの新たな魅力の発信に大いに貢献をしている。

さらに同フィルのザニョーニ総裁と吉田芸術監督はイタリアにおける日本人音楽家の教育、演奏活動の機会拡大に力を注いでおり、首席奏者から個別指導も受けることが出来るマスタークラスでの研修には、オーディションで選ばれた優秀な日本人若手音楽家が参加している。



演奏者プロフィール

ジョルジョ・ザニョーニ Giorgio Zagnoni

(ボローニャフィルハーモニー管弦楽団 総裁)

「ボローニャの生んだフルートの魔術師」(Flauto Magico da Bologna)、「フルートのミダス王」(Re Mida del Flauto)と評されるイタリアを代表するフルーティスト。

18歳でミラノのイタリア国営放送(RAI)交響楽団のフルート首席奏者を選抜するコンクールで優勝、同交響楽団の首席奏者として活躍した。

ソリストとしても、ミュンヘンのヘラクレス・ザールやニューヨークのカーネギー・ホール、ミラノのスカラ座等、世界各地の著名な劇場で公演し、アメリカ建国200周年の際にはカーター大統領に招かれ、ホワイトハウスでのコンサートで演奏した経歴を持つ世界的フルート奏者。

1968年、20歳でボローニャのG.B.マルティーニ音楽院の教授に就任。2012年までの44年間、自身の演奏活動の傍ら主任教授として若手音楽家の育成に尽力した。

2010年ボローニャフィルハーモニー管弦楽団総裁就任(現任)。

2015年より、さわかみオペラ芸術振興財団が毎年開催するジャパン・オペラ・フェスティバルの名誉実行委員として、野外オペラ公演やコンサートのために日本を訪れ、その卓越した経験を活かし日本人スタッフに対し助言や指導を行い大きな成果をあげている。

2020年、音楽を通じた日本・イタリア間の友好親善に寄与した功績により「旭日中綬章」を授与された。

(受章歴)

イタリア共和国功労勲章グランデ・ウッフイチャーレ(2003年)

イタリア共和国功労勲章カヴァリエーレ・ディ・グラン・クローチェ(2019年)

日本国旭日中綬章(2020年)



パオロ・マンチーニ Paolo Mancini

(ボローニャフィルハーモニー管弦楽団 コンサートマスター)

7歳からヴァイオリンを始め、フィレンツェ音楽院ルーイジ・ケルビーニにて最高得点でディプロマを取得。その後、ヴァイオリンデュオやピアノアンサンブルを学び、イーモラの "Incontri col Maestro" 音楽学校にて室内楽を学ぶ。ガッティ、ムーティ、シャイーなど数々の著名な指揮者やソリストと共演。また、ミラノのスカラ座管弦楽団としても演奏



し、ヴェネツィア・フェニーチェ歌劇場管弦楽団、フィレンツェ・五月音楽祭ではコンサートマスターを務める。コンクール審査員や音楽協会、ボローニャやフェッラーラの音楽院でマスタークラス講師としても活動。現在、ボローニャ歌劇場管弦楽団及び、ボローニャフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターを務め、ソリストとしても活躍中。

ダヴィデ・ドンディ Davide Dondi

(ボローニャフィルハーモニー管弦楽団 ヴァイオリン首席奏者)

ボローニャ音楽院で勉強し、キジャーナ国際音楽アカデミーにてさらに研鑽を積む。ミラノ、ジェノバ、ボローニャなどの一流オーケストラコンクールで入賞。ウィーンフィルハーモニーやヴェネツィア・フェニーチェ劇場とは首席奏者として共演し、ムーティ、ティーレマン、パヴァロッチイといった世界的指揮者や歌手などと共演。また、ペーザロ国際コンクールでは1位に入賞するという経歴を持つ。ソリストや室内楽にも力を注ぎ、フランス、イギリス、ド



イツ、ロシア、日本など様々な国で演奏。2014年よりジョヴァニーレオーケストラの責任者を務め、国内外で脚光を浴びる。ボローニャ歌劇場管弦楽団、ボローニャフィルハーモニー管弦楽団にて首席奏者を務める。

フランチェスコ・マリア・パラッツォーリ Francesco Maria Parazzoli

(ボローニャフィルハーモニー管弦楽団 チェロ首席奏者)

ミラノ音楽院にてディプロマを取得。ベートーヴェンピアノ三重奏(曲全集)をミラノ・オーデトリウムで演奏するため結成した「マティッセ・トリオ」のチェロ奏者として参加。数多くのピアノ三重奏曲を初演、録音している。

1992年からはチェロ首席奏者としてボローニャ歌劇場管弦楽団在籍。

著名な音楽家が多く在籍する「Accademia Filarmonica di Bologna」(ボローニャ・音楽家団体)で2002年、名誉会員に任命される。

2011年からボローニャのG.B.マルティーニ音楽院にて講師として活躍。2017~18年はミラノスカラ座管弦楽団にチェロ首席奏者として長期間招聘される。ボローニャフィルハーモニー管弦楽団には2008年の創設メンバーの1人として参画。国内外で数多くのコンサート活動や室内楽メンバーとして活躍している。



ファビオ・クアラータ Fabio Quaranta

(ボローニャフィルハーモニー管弦楽団 コントラバス首席奏者)

ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院にて、マッシモ・ジョルジョ氏にコントラバスを学び最高得点でディプロマを取得。後に、カターニア・ベッリーニ歌劇場とパレルモ・マッシモ歌劇場のオーディションを通過、2001年にパレルモ・マッシモ歌劇場の首席奏者に就任し、2013年まで務める。サンタ・チェチーリア音楽院管弦楽団、スイス・イタリアーナ管弦楽団、ボローニャ歌劇場管弦楽団など、有数の音楽団体と共演。また、ソリストィ・ディ・パルマ、フィアーティ・ディ・パルマ、アンサンブル・アルキなどの著名なイタリアの室内楽にも参加。

2013年よりボローニャ歌劇場管弦楽団およびボローニャフィルハーモニー管弦楽団のコントラバス首席奏者として活躍中。

